< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200585
法人名	オフィス藤田有限会社
事業所名	グループホーム燦々
訪問調査日	平成21年1月22日
評価確定日	平成21年3月12日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200585
法人名	オフィス藤田有限会社
事業所名	グループホーム燦々
所在地	鹿児島県薩摩川内市永利町969-1 (電話) 0996-22-3961

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO さつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(20年 12月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 9,25人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	200(1回100円) 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月 26日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 85,2 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長谷川医院、ひがしクリニック、Kメンタルクリニック、若松歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川内駅から空港バイパスへ5分ほど走ったのどかな田園地帯にこのホームは立地している。近隣に九電の事務所があり、24時間職員が常駐しており、また隣の宅老所とも避難訓練を一緒にするなど災害時の協力体制も話し合っている。理念にも掲げているように利用者を人生の先輩として敬う気持ちとそれまでの生活習慣や価値観を重要視して個々に合わせた極めの細かいケアが行われている。ホームは看護大学の実習生の受け入れや認知症介護実践者研修、管理者研修の実習の場としても開放している。職員の自己研鑽意欲も高く、資格取得に向けて働きながら学ぶ姿勢が見られる。地域との交流も盛んであり、介護相談会を開くなど地域福祉にも貢献している。開設6年目で今後更に地域密着型としての充実が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	年間の研修計画も作成している。自主勉強会を1ヶ月に1回全職員が交代で担当になり議題を決めておこなっている。外部研修も復命書を提出し、グループホーム会で報告している。介護計画の見直しは、日々の申し送りで問題があがった場合と都度の変化時には見直しをおこなっている。毎月のグループホーム会でも話し合っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について管理者、職員は勉強会を行った。職員より記録を充実していきたいなどの意見が出た。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長、民生委員、市の担当課職員、家族代表などの参加で定期的開催されている。地域で悩みを抱えている人たちのための介護相談会を開いてはどうかとの意見が出、地域に回覧板でお知らせするとともに、社会福祉協議会、市役所にもチラシをおかせてもらうなどの協力で近く開催予定である。今後は更に充実した運営推進会議を目指すべく幅広い参加者の呼びかけを課題としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や、連絡の際に意見、要望を聞き出すように声掛けをしている。1年に1回無記名のアンケートを実施している。出された意見、苦情などはサービス向上委員会で内容を検討しサービスの質の向上に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の祭り、ランドゴルフ大会、資源回収などに参加している。ホームでの催し物の際、近隣の独り暮らしのお年寄りにも声をかけて遊びに来てもらうなど地域との交流は盛んである。中、高校生のボランティアの受け入れもしている。また、近所の九電の事務所と24時間体制で災害時の協力体制を話し合っている。地域で悩みを持った方々のためにホーム主催の介護相談会を開催し、地域住民の情報の把握にも努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームを家としてとらえ、地域の人々とともに、その人らしく暮らせることと利用者の生活習慣や価値観を重視した理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で理念にそった職員指導を徹底している。職員会議の中で理念について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域のお祭り、グランドゴルフ大会、資源回収に参加している。また、ホームの催し物の際に地域の独り暮らしのお年寄りに遊びに来ませんかと声かけをするなど地域との交流は積極的である。中、高校生のボランティアの受け入れもしている。地域を対象とした介護相談会も年1回開催予定である。地域向けのホーム便りの発行も検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について、管理者、職員は勉強会を開いた。職員から記録を充実しなければなどの気づきの意見があり、今後の課題として質の向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、市の担当課職員、家族代表などの参加を得て定期的に開催している。参加者より地域で介護相談会を開いてはどうかの提案があり、町内会の協力のもと近く開催予定である。今後は更に充実した内容の運営推進会議を目指し幅広い参加者の呼びかけを徹底していく取り組みに期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例など相談するようにしている。管理者が地域のグループホーム連絡協議会の副会長でもあるので、市町村との連携を図りやすい体制にある。近所に在住の市職員もおり、気軽に立ち寄ってくれる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書送付時に担当職員と管理者から手紙で日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納長のコピーと領収を毎月送付している。職員異動は担当より手紙で報告と、3ヶ月に1回のホーム便りの中で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や連絡の際に意見要望を聞きだすように努めている。年1回家族会時にアンケート(無記名)をおねがいし、出された意見などはサービス向上委員会で話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員はなじみの関係の大切さはわかっており、運営上やむをえない異動があっても10日以上でのオリエンテーションを行い、職員、利用者共々なじめるような環境作りに努めている。また、管理者をシフトに入れないなど余裕のある職員体制である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、自主勉強会を、全職員が交代で担当になり課題を決めて行っている。外部研修も復命書を提出し、グループホーム会で報告し、情報の共有と知識の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加入し、情報交換や勉強会など交流が行われている。また、職員の交流研修も検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際にはまずホームにきてもらい、家族や本人の状況を把握するようにしている。実際にホームを見てもらって納得して入居してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬う理念に基づき、生活歴などを尊重するように心がけている。日々のケアの中で感謝のことが心にひびくこともあり、常に喜びを分かち合うようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何をして過ごしたいのか常に意識し声かけをしている。表現の困難な利用者には普段の表情でよみとるようにしたり、いくつかの選択肢を設け選んでもらうなど、できる限り自己決定を促している。きめこまやかなケアができるように思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族など思いや要望を聴き、モニタリングやカンファレンスで職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本意の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヶ月)な見直しと申し送りなどで問題があがった場合職員会議で話し合い必要に応じ都度の見直しとケアプランの追加修正をしている。入退院後の見直しもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関との連携も取り、点滴治療などをホームで支援している。病院受診、自宅訪問、買い物の支援、法人内のデイの利用など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対しての対応指針を作成している。ホームができる最大の支援を納得してもらい、関係者全体の方針の統一が図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねないよう留意しことばかけ、対応を徹底している。個人情報については職員採用時に誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴時間など決めておらず、外出やレクリエーションなども個々の体調や生活リズムに留意しながら柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできること(野菜きり、盛り付けなど)をしてもらいながら職員も和やかな雰囲気の中で一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日ごとに入浴予定者を決めてはあるが、個々のその日の体調や希望に応じて柔軟な支援を心かけている。また、静脈瘤のある利用者や気分転換に足浴場も作っており、畳に座って足浴が楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝、新聞を隣のデイサービスまで届けるのを日課にしている利用者もいる。また、調理、洗濯物干し、たたみ、新聞紙で卓上ゴミ箱作りをしてくれる利用者など個々の役割を発揮できるように支援している。利用者の希望で家族などに電話や手紙の支援もしている。財布を自己管理している利用者には買い物やカタログ注文などの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には朝の散歩、買い物、ドライブなど出かけている。また、時には近くのレストランに外食やハイキング、月見、花見、イルミネーションツアーに出かけるなどできるだけ外の空気に触れるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。日中は玄関、窓の鍵はかけていない。自己外出の可能性のある利用者もいるが、職員同士の連携を中心に危険防止に努めている。外出しても職員の見守りで本人が納得する方法で帰宅してもらおうなど自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防団立会いのもと大規模な避難誘導、通報、消火訓練を行っている。また、月1回宅老所のスタッフと合同で自主的に通報訓練をおこなっており、近隣の住民にも火災時の連絡体制に参加してもらっている。九電の事務所とも協力体制を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況に応じて、食事形態(おかゆ、とろみ、刻み食、栄養ドリンクなど)を考慮している。栄養バランスは法人内の食事委員会で話し合いをしている。また、管理栄養士の指導のもと、月1回ヘルパー協議会の調理実習に参加し献立の参考にしている。水分はチェック表を作成し把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く温度調節や換気、掃除など行き届いている。建物の奥にもソファとテレビがあり、プライバシーも保たれている。共用空間の和室は中庭に面しており、和室に腰掛けて足浴もできるように工夫されている。利用者が思い思いのところで過ごせるように配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と同じように生活に必要な家具、寝具、備品、衣類などは利用者に持ち込んでもらっている。なじみの飾り物や家族の写真、他にもテレビ、ラジオ、仏壇、テーブル、希望があれば電話も可能である。それぞれ個性ある居室になっており、利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。		